

DHC

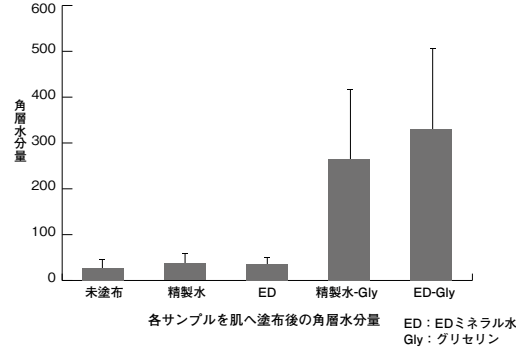
海洋深層水とグリセリンの併用で角層水分量が上昇

ディーエイチシーは、伊豆赤沢の海洋深層水とグリセリンを併用することで肌の潤いが高められることを明らかにした。同研究成果は第42回日本化粧品学会(2017年6月9日、10日)にて発表している。また、同技術は海洋深層水を配合した保湿化粧品に応用する。

を用いて検証したところ、EDミネラル水は精製水と同様、単独では保湿効果が確認されなかったが、グリセリンと併用することで精製水との併用よりも角層水分量が

海洋深層水は、一般に低塩性、清浄性に加えて、無機栄養塩に富むことが知られており、食品や水がバランス良く豊富に含まれる原水とEDミネラル水の2種類で安全性を比較した結果、より安全性が高いEDミネラル水が化粧品利用に適していることがわかった。続いて、化粧品への応用にあたりEDミネラル水の保湿力を角層水分量とで、肌の

海洋深層水の肌の潤いへの効果



潤いを高められるという。さらに、EDミネラル水の保湿性について様々な検討を行う中、常に太陽にさらされている腕の外側(露光部)と太陽が当たっていない腕の内側(非露光部)にEDミネラル水とグリセリンの溶液を塗布し、角層水分量を測定してみた。

その結果、非露光部皮膚に比べて露光部でより保湿効果が高まることからわかった。これらのことから、自然老化や光老化に伴いダメージを受けた肌に対して、EDミネラル水とグリセリンは失われた肌の潤いを高める効果が期待でき、さらにその効果はダメージを受けた肌においてより高くなるといえる。

ミック・ケミストリー

人材育成の強化でさらなる成長へ

ミック・ケミストリーは、化粧品OEM事業が堅調に推移している。

小野沢勝弘常務取締役は、「今後は無理に業績拡大をしていくのではなく、長期的な受注獲得を念頭に置いて、人材を育成し、技術力を強化していきたい」と語る。



小野沢常務

調に推移しており、多くの受託製造業各社も業績を拡大している。

そうした状況を踏まえつつ、小野沢氏は「業績がよいと浮き足だつてし

まうことが多いが、そういう時こそ内部強化を行わなくてはならない」と述べ、技術力強化と合わせて人材育成を進めていく考えを示した。

人材育成では、先輩社員からの教育によりこれまで会社として培ってきた技術をしっかり伝承していくとともに、各自で勉強して新たな知識の獲得に積極的に努めるよう指導している。

「化粧品市場が好調だと我々も受注が増加するため、『今のやり方・技術力で受注が獲得できている』と思い込んでしまっている。しかし、いざ、化粧品市場が落ち着いたときに受注が獲得できるとは限らない。現状のやり方や技術力で満足せずに、高品質で安心安全な製品を提供するために、常に研究に取り組むよう指導している」(小野沢氏)

また、同社では今年、新卒社員を9名採用するなど、若手の採用を行っており、将来的に事業を担っていく若手を採用することで内部体制を強化していくという。

さらに、実力が身についた社員に会社で働き続けてもらうため、働きがいがある職場の構築を目指している。

「若いうちから研究を任せるなど、自己裁量権を持たせることで、働きやすく働きたいのある職場環境を提供している。今後も人材育成を強化し、技術力を高めていきたい」(小野沢氏)

コニカミノルタジャパン

軽量タイプで抜群の操作性を誇るマルチアングル分光測色計が好評

自動車・家電製品・衣料品だけでなく、食品・化粧品・化学品など幅広い分野で「色」が測定されており、測色計が活躍するシーンは生産現場のみならず、研究開発や品質検査の各部門にまで及ぶ。物体色(モノの色)・光源色(光の明るさや色)測定における計測機器のトップメーカー「コニカミノルタ」(販売会社「コニカミノルタジャパン」)では、昨年10月に発売したハンディ型のマルチアングル分光測色計「CM-M6」が、化粧品業界でも高い評価を得ている。

化粧品業界における測色計活用の例としては、パール入りファンデーションやメタリック調などのパッケージの色管理が挙げられる。光輝剤を含むパールやメタリックなどの色は、観察角度や光の入射角度によって明るさや色が変わり、見える。このような色を、多角度で測定し定量化するのが、マルチア

ハンディ型に大きく分類される。据置型は、試料(サンプル)をセットすると多角度から色を自動的に測定するが、測定角度が広範囲に及ぶため測定の所要時間が比較長くなってしまう。

これに対し、ハンディ型の「CM-M6」は測定角度を6方向に絞り込むことで測定時間が短縮し、本体が1.1kgの小型軽量サイズのため、片手でも持ちやすく安定した測定が可能で、複数サンプルを測定する場合でも短時間で簡単に測定ができる」(西本昌弘、センシング事業部販売推進部マーケティンググループリーダー)という。

「CM-M6」の特長としてはこうした操作性に加え、小径測定(測定径φ6mm)や曲面でも安定した測定が可能のほか、「据置型と比較してコスト面で導入しやすい」(西本氏)といったメリットがある。

同社では、この「CM-M6」の発売と同時期に、国内メーカーで初めて色だけでなく光沢も同時に測定できるハンディ型分光測色計「CM-25cG」を投入した。測定ボタンを一度押せば色度と光沢度を約1秒で同時測定できるため、「従来のように測色計と光沢計をそれぞれ用意し交代で測定させる必要がなく、作業時間の短縮化と業務効率化に大きく貢献できる」(西本氏)という。

また化粧品業界向けに分光測色計「CM-700d」「CM-2600d」のタイプでは、肌解析ソフトウェア「CM-SA」と組み合わせ使用することで、肌の色を高精度で計測すると同時に、メラニン量指数やヘモグロビン量指数、血中酸素飽和度指数を数値化することが可能で、美白効果を定量的に評価・解析できる。

「来年1月に初出展する『第8回化粧品開発展』では、最新鋭の分光測色計と肌解析ソフトウェアを紹介し、化粧品業界での認知度向上を目指す」(西本氏)

「CM-SA」

